



マンダレー市王宮



ミャンマーチーム

それから、イエスは彼らにこう言われた。
「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」
マルコの福音書 16章 15節

和

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン聖書学院
2019年9月・10号 NO.177

ミャンマー&シンガポール アウトリーチレポート



シンガポールチーム

シンガポール独立記念の
予行練習風景



「アブラハムの信仰による保証」

アブラハムの信仰に倣う

「そのようなわけで、すべては信仰によるのです。それは、事が恵みによるようになるためです。こうして、約束がすべての子孫に、すなわち、律法を持つ人々だけでなく、アブラハムの信仰に倣う人々にも保証されるのです。アブラハムは、私たちすべての者の父です。」（ローマ人への手紙4章16節）（新改訳2017）

学院スタッフ・講師

坂本 清憲師



神様の約束は、アブラハムの信仰に倣うすべての人々に保証されています。「アブラハムの信仰に倣う」（ローマ人への手紙4章16節）とは、どのようなことかを見ていきましょう。

■信仰とは何か？

イエス・キリストを自分の「主人」とする人々の信仰の基礎は、「神様との究極的な関係」です。この関係は、ヘブル人への手紙12章2節に書かれている姿です。『信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。』信仰の本質的な側面は、私たちの人生に神様が究極的に関わることを認めることです。わかりやすい表現をするならば、私たちが「神様にお世話されること」を望む、ということです。聖書からひとつの例を見ていきましょう。

「イエスはまた、こう話された。「ある人に二人の息子がいた。弟のほうが父に、『お父さん、財産のうち私がいただく分を下さい』と言った。それで、父は財産を二人に分けてやった。それから何日もしないうちに、弟息子は、すべてのものをまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して、財産を湯水のように使ってしまった。何もかも使い果たした後、その地方全体に激しい飢饉が起こり、彼は食べることに困り始めた。それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑に送って、豚の世話をさせた。彼は、豚が食べているいなご豆で腹を満たしたいほどだったが、だれも彼に与えてはくれなかった。」（ルカによる福音書15章11節～16節）

放蕩息子は何もかも失った時、父ではなく、別の人の世話になることを選びました。その主人は彼に豚の世話をさせ、ろくに食事も与えませんでした。この世の主人や価値観は、私たちには何も与えてはくれません。しかし、この世の主人とは対照的に、私たちをお世話したいと願う、天の父の姿とは、どのような姿でしょうか。

「こうして彼は立ち上がり、自分の父のもとへ向かった。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけて、かわいそうに思い、駆け寄って彼の首を抱き、口づけした。息子は父に言った。『お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。もう、息子と呼ばれる資格はありません。』ところが父親は、しもべたちに言った。『急いで一番良い衣を持って来て、この子に着せなさい。手に指輪をはめ、足に履き物をはかせなさい。そして肥えた子牛を引いて来て屠りなさい。食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。』こうして彼らは祝宴を始めた。」(ルカによる福音書15章20節～24節)

天の父は、このように最上のもので豊かに私たちを養われます。この究極的な神様との関係に、私たちの信仰の本質があります。

■信仰の保証とは何か？

信仰とは、『望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。(ヘブル11章1節～3節)』この「望んでいること」とは、私利私欲のようなものではなく、信仰によって私たちが得

ることができる望みを指しています。それは、イエス・キリストです。私たちの信仰が望むことは、イエス・キリストにあずかる(属する)ことです。そして、これを確信させるのが、聖霊様の力です。自己努力ではありません。それが聖霊のバプテスマと呼ばれる聖霊の油注ぎであり、聖霊に満ち溢れる力です。

私たちがこの地上で信仰をもって歩むには、この御霊の保証が必要です。聖霊様の働きが、私たちに見えないものを悟らせ、イエス・キリストを主として信じることを可能にするのです。

「私たちは見えるものではなく、見えないものに目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです。たとえ私たちの地上の住まいである幕屋が壊れても、私たちには天に、神が下さる建物、人の手によらない永遠の住まいがあることを、私たちは知っています。私たちはこの幕屋にあってうめき、天から与えられる住まいを着たいと切望しています。その幕屋を脱いだとしても、私たちは裸の状態にいることはありません。確かにこの幕屋のうちにいる間、私たちは重荷を負ってうめいています。それは、この幕屋を脱ぎたいからではありません。死ぬはずのものが、いのちによって呑み込まれるために、天からの住まいを上に着たいからです。そうなるのにふさわしく私たちを整えてくださったのは、神です。神はその保証として御霊を下さいました。ですから、私たちはいつも心強いのです。ただし、肉体を住まいとしている間は、私たちは主から離れているということも知っています。」(2コリント4章18節～5章6節)

■アブラハムの信仰とは何か？

神様はアブラハムに、土地を与えること、子孫が繁栄すること、すべての国民がアブラハムを通して祝福を受けることなどの約束（契約）を結びました。（創世記 12～22 章）

「主はアブラムに言われた。『あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。』」創世記 1 2 章 1 節

アブラハムの信仰は、これらの約束に結びついています。この信仰に倣うことで、神様の約束が私たちに保証されます。

■アブラハムの信仰に倣うこと

実は、よく聖書を読むならば、アブラハムの生涯ではこれらの約束はほとんど実現されなかったことに気付くでしょう。しかし、現代を生きる私たちは、これらの神様の約束が今や成就されているのを見ています。神様はなんと偉大な方でしょう。これこそ、御霊によらなければ悟ることのできないことかもしれません。

アブラハムの信仰とは、ただ、神様の約束（契約）に信頼するものでした。自分自身の生涯では決して得ることがない約束、偉大な神様の計画のなかを信仰を

もって生きたアブラハムの姿に、大きな感動を覚えます。信仰は自己実現や目標達成のための手段ではありません。信仰は、神様の約束を私たちが受け取るために必要なものなのです。もしかしたら、その神様の約束は自分の生涯では実現されないほど偉大で崇高なものかも知れません。では、自分の生涯では達成できないものだからといって、神様の約束を放棄すべきでしょうか？そうではありません。アブラハムは、自己の望みではなく、神様の望みを信仰としたのです。

■アブラハムの望み—信仰とは

アブラハムが待ち望んでいたものは、「堅い基礎の上に建てられた都でした。アブラハムの究極的な望みは、神の御国の実現であり、そのための働き人となることでした。

「信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました。信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに受け継ぐイサクやヤコブと天幕生活をしました。堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都の設計者、また建設者は神です。」（ヘブル 1 1 章 8～10 節）」

アブラハムは、自分の生涯を超えたこの約束、神様の偉大なご計画を信仰によって受け取り、見つづけていたのです。その信仰によって神様は彼を義とされました（ローマ 4 章 1 8～2 2 節）。

「彼は望み得ない時に望みを抱いて信じ、「あなたの子孫は、このようになる」と言われていたとおり、多くの国民の父となりました。彼は、およそ百歳になり、自分のからだですでに死んだも同然であること、またサラの胎が死んでいることを認めても、その信仰は弱まりませんでした。不信仰になって神の約束を疑うようなことはなく、かえって信仰が強められて、神に栄光を帰し、神には約束したことを実行する力がある、と確信していました。だからこそ、「彼には、それが義と認められた」のです。」(ローマ人への手紙4章18節～22節)

アブラハムの信仰に倣うとは、「神には約束したことを実行する力がある」ことを確信することです。ひとりひとり賜物と役割は違うかもしれませんが、私たち「神を愛する者」はすべて、神様と共に、この御国を建て上げる働きに召されています。私たちはイエス・キリストを主とする者として、「あなたの御国が建て上がる働きをさせてください」と、神様に祈り求める必要があるのです。■



CD販売・刊行物

●お申し込みは／学院事務局まで

※サンプルは、下記のページで聴くことができます。

<http://www.cfnj.com/media.html>



「神の指が
ふれた時」

定価／1枚 (CD)

(送料別) **700円**



「神のみことば
のいやしの力」

定価／1枚 (CD)

1,000円
(送料別)

CFNJ小冊子
無料プレゼント!

●お申し込みは
／学院事務局迄



「聖霊のバプテスマを受けるには」

(ゴードン・リンゼイ著)

「いやしの信仰」 (ゴードン・リンゼイ著)

「山をも動かす祈り」 (ゴードン・リンゼイ著)

「主の恵み尽きることなく」

(鍛冶川 紀子著)



ミャンマー・シンガポール アウトリーチ レポート！ 2019

2019年7月12日～22日の11日間

■7月12日から22日の11日間、学院の海外アウトリーチが行われました。今回は、2009年から10年ぶりとなる「ミャンマー連邦共和国」と、東南アジアの中心都市である「シンガポール共和国」に、2チームに分かれてアウトリーチに向かいました。

ミャンマーでは以前も訪問した、「ハッピーファミリー神学校」を中心に、周辺の10カ所余りの教会や、ハンセン病の施設などで奉仕させていただき、とても貴重な経験と祝福に満ちた時となりました。

又、シンガポールでは TWR (Trans World Radio の略) の日本宣教代表のパク師からのお招きを頂き、他民族国家であるシンガポールの教会の状況や、これからの宣教のビジョンなどを伺いました。又、日本からもチームによる証しや、日本の宣

教の現状なども報告させていただくなど、深い交りと貴重な学びの時となりました。

今回、参加者の中には初めての宣教旅行、又、初めての海外旅行となる学生も幾人かおり、これからの主にお仕える者としての、将来のビジョンを受け取る時ともなりました。

このアウトリーチの為にご支援やお祈り下さった皆様、又、学生の母教会や奉仕教会の皆様にも心からの感謝を申し上げます。そして最後に、チームを受け入れて下さった現地の教会の皆様や、全ての旅路の守り導いて下さった主に感謝と栄光をお捧げ致します！以下、今回、参加した学生の証しレポートを通して、アウトリーチのご報告をさせていただきます。



Myanmar Outreach Report

「ミャンマーの光と絶え間ない喜び」

金子 言葉 (1年生)

■はじめに、今回私たちチームをもてなし続けてくださったザム先生を初め、Trinity Church や Happy Family、出会った全ての皆さん、そして伊藤雄基君に心から感謝の気持ちを伝えたいです。私は、90%が仏教というミャンマーにあっての彼らの飢え渴き、臨ん

に満ちた礼拝、賛美の力、もてなしの心に、初めから終わりまで本当に感動と感謝しかありませんでした。彼らの温かい心、純粹で美しい姿に胸を打たれました。今回出会った方々一人一人が、ミャンマーの光でした。

学院の上履きのまま出発という、ただ笑うしか



ない状態から私のミャンマーアウトリーチは始まりましたが、この上履きで過ごす旅は最高に快適で、これが御心だったのだと今は思えます。5時間かけて帰ってきたバスに携帯を忘れもう一度バスに戻り無事に見つけ出した時は、そのバスが再出発する5分前でした…！神様はこんな私をいつも全力で守り、好意を注ぎ続けてくださいました。

3日目、私は自分の弱さや問題に目を留めてしまい、喜ばなくなってしまいました。孤独に襲われて、両親ととりなしチーム女性3人に連絡しました。その時改めて教えられたことは、ミャンマーの一瞬一瞬を感謝し楽しむこと、自分の弱さを受け入れ、神様の愛と憐みを受け取り喜びを選択することでした。祈っているとみことばが心に浮かんできて、口で宣言し始めました。

「わたしはあなたに命じたのではない。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」(ヨシュア記1章9節)

朝、目を覚ますと母から同じみことばが届いていました。自分がどれだけ愛され祈られているか実感せずにはいらませんでした。みことばの偉大さと、とりなしの祈りの力を改めて知りました。それからの私は、喜びと笑い、賛美に満ち溢れて、どんな場所でもどんな奉仕でも、毎日元気いっぱい精一杯行い過ごすことができました。そして、チームの皆がこのままの私を受け入れてくれたことが、自分自身の更なる解放に繋がっていったと強く感じます。ミャンマーアウトリーチという特別な時、場所ではありましたが、私自身が感じることに、受け取ることは日常の信仰生活と同じものでした。

最後の日曜日、ミャンマーの皆と合同で賛美礼拝奉仕に参加できたことは、私にとって特別な経験、思い出となりました。全てミャンマー語だったので携帯を見ながらになってしまいましたが、ただただ嬉しくて幸せで、飛び跳ねずにはいられない最高の時間でした。今回の旅は、「賛美は私の喜び」と今まで以上に感じる特別な機会となりました。

ミャンマーの地で、チーム一人一人が本当に主にあって輝いていました。皆の姿を見ているだけでニコニコ出来て、皆の存在が愛しくて、そのように感じられる神の家族、仲間が出来たことが私は本当に嬉しいです。そして何よりも、神様が私たちをミャンマーに導き、完全に守り、私たちを通して力強く働いて下さったことに心から感謝します。チェーズーティンバーデー！（ありがとう！）

(次ページにも続きます)





Singapore Outreach Report

「奇跡の連続の アウトリーチ」

ハンダ ダニエル ケンジ (1 年生)

1. 金銭面の奇跡

最初はアウトリーチに行くお金がありませんでした。そして、ちょうどアウトリーチに行く月にパスポートの切れる月でした。その為、最初はアウトリーチに行かない方針でした。しかし、紀子先生の励ましがあがり、アウトリーチに行く準備を始めました。その中でいろんな人たちから献金を受けるようになりました。そのおかげで無事にパスポートを更新することができました。またシンガポールに行く費用がほとんど満たされました。また神様からの平安と確信を受けてシンガポールに行く事ができました。

2. 内なる癒しの奇跡

僕がシンガポールに行く準備をしていた時、シンガポールの食べ物ほとんど海鮮系である事を知りました。僕はアトピーを持っているので甲殻類のエビやカニが食べられません。特にエビを食べると呼吸困難になるのでエビは絶対に食べられません。その為、食べ物の事を心配しました。しかし、シンガポールチームの人から、海鮮以外にもあるから大丈夫だと言われました。けれども現地に着いたら 7 割の料理にはエビが入っていました。みんなが美味しそうに食べている姿を見ているうちに、自分がアトピーを持っている事に対して醜さを感じ始めました。そして、自分の事がいやになりました。しかし、シンガポールチームのリーダーの坂本先生が相談に乗ってくれました。先生と話している中で、自分がアトピーをコンプレックスとして受け止めている事に気付く事が出来ました。また、先生に祈ってもらいました。そのカウンセリングの後、アトピーのコンプレックスから癒されました。

3. 出会いの奇跡

神様はこのアウトリーチで、奇跡とも言えるような多くの出会いを与えてくれました。まず、最初に私達が出会った人は、ピーターさんとハンセンさんでした。彼らは僕たちを空港に迎えに来てくれた TWR のグループの方々でした。ハンセンさんは日本に何度も来られていたので、日本語が流暢でした。その為、シンガポールにいるのに関わらず、日本語で普通にハンセンさんと話す事が出来ました。



ピーターさんは、私達シンガポールチームに食事をほぼ毎日ご馳走してくれました。そのおかげで食事の事はほとんど心配しなくて済みました。また、シンガポールに行くきっかけを作ったパク先生。パク先生は以前日本で牧会されていたので、日本語がとても上手でした。パク先生は現在、ラジオを通して伝道する機関、TWR シンガポールの責任者です。そして、彼は月一に日本の為に祈り会をしておられます。彼は日本を愛しておられ、心から日本のリバイバルを望んでいる人です。またTWRに参加している方々の日本にする熱意を見た時、日本の訪れが近づいてきたと感じました。これから、新しい時代が日本に始まる事を確信する事が出来ました。今思うと訪れは近づいたのではなく、すでに神様は日本を顧みられていると信じています。

4. 言語を理解する奇跡

シンガポールの共通用語は英語ですが、僕は英語があまりわかりません。でもある日シティーハーベストの神学校に行った時、通訳用のラジオを渡されましたが、ラジオ無しで授業を聞くように示されたので、僕はラジオ無しで講義を受けました、僕は講義の6割理解する事が出来ました。また、土曜日にシティーハーベストの礼拝に参加したら、牧師先生のメッセージを7割理解する事が出来ました。また日曜日の礼拝も同じでした。本当に主の恵だったとしか言えません。

5. 祈りの答え

僕はアウトリーチで多くの奇跡や不思議を見たいと望んでいた為、アウトリーチの前に断食と祈りに専念していました。そして、神様はこれらの奇跡によって僕の祈りに答えてくださいました。ハレルヤ！主よ、あなたの御名を誉めたたえます。そして感謝します。アーメン。



2019年度1学期

卒業式

4名の卒業生が旅立つ！



■2019年7月5日(金)午前9時から、学院顧問の有賀喜一師を迎えて、2019年度1学期の卒業式が執り行われました。この日、学院講師の先生方や在校生、又、遠くから卒業生のご家族や奉仕教会の先生方が多数かけつけて下さって、旅立つ4名の卒業生を祝福してくださいました。これからの卒業生たちの歩みの為に覚えてお祈りよろしくお願いたします。



■3年前の夏、ただバイクにまたがって北海道を旅していた時に、支笏湖で聖霊体験と



召命を受けて、この学び舎の門を叩きました。あれから3年後、今年の9月から東京の中心にある

教会で日本のリバイバルのために働きます！CFNJ 聖書学院での生活は、一言では語り尽くせません。ただ、僕にとって日本一の聖書学校であり、最も多くを学びました。最高な先生と最高な仲間と過ごした毎日は聖霊さまから与えられた深い啓示と経験の連続でした。そして、神さまは私の人生のすべてを癒し、満ちし、次なる扉を用意してくださいました。本当に感謝します。イエスキリストの福音のために、ただひたすら前に進んでいきます！



3年(アルプスコース卒業) 蒲谷 結基

■主に感謝します！この一年、主は、私に最高の友を与え、また、その友を通して、学院



の先生やスタッフの皆さん、講師の先生方、出会うお一人お一人を通して、私に必要な最高の模範を見せてくださり、教え、建て上げて下さいました。そして、私が本当の意味で聖められて、成熟するための鍵を与えてくださったと思います。主に栄光あれ！



3年(アルプスコース卒業) 竹内 聡

■主の御名を賛美致します。2年間で振り返り思う事は、ただ主の恵み。



神を知り、友を愛す。学びもそうですが、神の摂理の中で出会う兄弟姉妹。お互い心を開いて語り合う中で大笑いし、時に

は泣きすぎて鼻が真っ赤になり、ティッシュの山。愛の中で成長を確認し合える友を神は与えてくださいました。神のご計画と覆いの中で昭和の私たちだから伝えられる事、出来る事があります。「彼らは昔の廃墟を、立て直し、先の荒れ跡を復興し、廃墟の町々、代々の荒れ跡を一新する。」(イザヤ書61章4節)私は神に期待しています。愛に満ちた先生方とCFNJに入学を決断し、私に学ぶ機会を与えた夫に感謝します。



2年コース卒業 山谷 奈美

■ハレルヤ！卒業することが出来て感謝します。2年前にCFNJ 聖書学院に入学して



神様に時間を捧げる事が出来て、私の理解がどれくらいなのかを知る事が出来ました。神様との交わりを持つ生活を始める事が出来

て、聖書を深く読みひも解いていく必要を知る事が出来ました。泥沼の人生から引きあげられて、主の用意されたご計画に従う道には圧倒的な平安があり、主のみこころが何であるか、主が良いとされていることを自分で選択するという従順の訓練を通してキリストにある品性を磨いていきたいと思えます。快く送り出してくれた家族、教会、学院に感謝します。ありがとうございました。



2年コース卒業 敦賀 美香

CFNJ特別講義 ゲストスピーカー

2019年2学期 授業カリキュラムスケジュール

2019年9月9日(月)～12月6日(金)迄

「あなたのさとしは奇しく、それゆえ、私のたましいはそれを守ります。
みことばの戸が開くと、光が差し込み、わきまのない者に悟りを与えます。」
(詩篇119篇129節・130節)



エレナ・エレミーヴァ師

●ロシア、サハリ州ポロナISK教会牧師

9/18-19 (1・2時間目)



グラント・マレン師

●カナダ在住。精神衛生を専門とする医師。医者立場から心の束縛の鎖からの解放について教える。著書「心の解放」。

10/16-17(2・3時間目)

●この授業は有料となります。聴講には事前登録が必要です。詳しくは、学院迄お問い合わせください。



ホゼ・ディアス師

●Heart of David (ダビデの心) セミナー主講師。力強い教えの賜物を持ち、毎年世界各地にて集会を開催する。

10/23-25 (1・2時間目)

●25日(金)の合同賛美集会講師
●26日(土) 9:00-17:00
「Heart of David 賛美セミナー」



ティモシー・ホンザレック師

●CFNJ 卒。プロフェッショナル、ボイストレーナーとして有名歌手の指導を手掛ける。ワーシップミニストリーや講師として世界各地で活躍。

10/23-25 (3時間目)



上沼 昌雄師

●アメリカ在住。群馬県前橋生まれ。高校2年生の時にスイスからの宣教師を通して信仰に導かれる。神学博士。「夫たちよ、妻の話を聞こう」他著書多数。

11/5-6 (1・2時間目)



ダニエル・マカーティー師

●フィリピン・ミャンマーなど、アジアを中心に宣教活動、神学校設立など行う。アメリカ人。

11/5-8
(5・6/3時間目)
(7・8/2・3時間目)

1・2年コース ※毎朝、8時から、賛美礼拝の時間があります。(敬称略)

	月	火	水	木	金
1 8:45~9:40	旧約聖書概論II 金聖圭	児童教育とミニストリーII アルマ・ベルメホ	世界教会史II 鍛冶川利文	約束の地を所有せよ アルマ・ベルメホ	雅歌の学び 松原望
2 10:00~10:55					
3 11:05~12:00	使徒の働きII 田中博	異文化対応力 堀本正美	エペソ書 坂本清憲	賛美と伝道 安田諭	エペソ書 坂本清憲

アルプスコース

1 8:45~9:40	祈り 田中博	牧会カウンセリングII 小栗昭夫	聖書の祭り 金聖圭	ヨブ記II 石田吉男	執り成し 岡田好弘
2 10:00~10:55					
3 11:05~12:00	近郊の牧師	伝道のマスタープラン 鍛冶川利文	聖書釈義II 松原望		

選択科目

午後 13:00~15:00	ドラムクラス 仲宗根昇平	英語クラス ドベリクリス	ボイストレーニング 新井田路子	実習 (必修)	ドラマ演劇クラス 鍛冶川 紀子
	タンバリンクラス 鍛冶川 紀子		ピアノクラス 新井田 路子		

アメリカ・ダラス市のクライスト・フォー・ザ・ネイションズとの提携姉妹校

ホームページをご覧ください!

cfnj.com
 随時願書受付中!

新入生募集中!

2020年1月(3学期)、及び、4月からの入学。



**無料体験入学
 実施中!**

平常授業のある3日間(3泊4日)

※詳しくは事務局まで。



- アルプスコース(牧師・リーダー養成)
- 1・2年本科コース ●1学期だけの短期で学ぶ事も可能です。



■SNSでCFNJの最新情報を

・Facebook: @CFNJBS

・Instagram: CFNJ 聖書学院



学院の特徴

- ・臨在溢れる賛美礼拝
- ・御霊に満ちた講師陣
- ・実践的なカリキュラム
- ・国内外のアウトリーチ
- ・独身寮・家族寮完備
- ・アメリカ留学編入制度
- ・多彩な選択科目

選択科目

- 演劇クラス
- ピアノクラス
- ワークショップドラマクラス
- 英語クラス
- ヘブル語クラス
- ボイストレーニングクラス

学院の必要と祈りの課題

ハレルヤ!いつも学院を覚えてお祈りくださり、尊い献金をもって支えてくださる皆様、本当にありがとうございます!皆様のご支援に支えられて、学院に与えられた使命を果たすべく、スタッフ一同心を合わせて祈りつつ日々の業務に励んでおります。その中で今、様々な必要を覚えておりますので、下記の祈りの課題を共に祈りくださり、導かれた方はご支援のほど、よろしくお願いいたします。

1. 学生数の増加の為。(現在の19名が30名以上になるように)
2. 学院施設の老朽化にともない、修理の費用が満たされますように。
3. 学院スタッフの健康と学生の学び、生活面、経済の必要の為。



CHRIST
 FOR THE NATIONS
 JAPAN

宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネイションズ日本校

CFNJ聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
 (0133)74-1341・1342 FAX 74-1343

●HP: www.cfnj.com 郵便振替: 02780-4-4688
 ●e-mail: office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文

